

- 1 日時 令和4年6月23日（木）
- 2 開催方法 書面による開催（書面による承認）
- 3 学校運営協議会委員

八木 英一郎（会長）	東海大学政治経済学部教授
立花 ますみ（副会長）	大磯高等学校 校長
北澤 浩一	大磯高等学校同窓会 会長
鈴木 健太郎	タウンニュース大磯・二宮・中井 編集長
高沢 研司	大磯町立大磯中学校 校長
釣 一博	大磯高等学校PTA 会長
石倉 元	大磯町東町地区 区長
小林 英文	大磯町政策総務部 政策課長
常盤 健嗣	平塚青年会議所 理事長

事務局

副校長、事務長、教頭、教務G（菊川）、進路指導G（穴田）
研究開発G（奥川）、生徒支援G（草野）、生徒会G（板本）、
広報渉外G（芳賀）、総務管理G（内藤）、書記（藤平）

4 議事

- ・令和4年度学校評価報告書（目標設定）について➡承認されました。

- ・ご意見（書面による。）

1. 教育課程・学習指導

・コミュニケーション能力は最も重要な能力の一つと思う。細分化された社会で能力を発揮するには、専門家の意見を聞いて理解して行動する能力が重要と思う。わからない事を自分の言葉で表現し質問する能力があれば、より一層深く理解できると思う。

・評価の観点について・・・①・②ともに「学校全体の平均〇. 〇ポイントを超えたか」となっているが、他項目は、「・・・と答えた生徒の割合が8割を超えたか」「・・・の回答が90%を超えることができたか」となっている。この目標数値の設定、あるいは表記方法は妥当かどうか。

・教育のデジタル化が進められている中で、タブレット端末等による画面上、文字のやり取りが増えることが想定されます。一方で主体的に物事を考え、解決し、自らの考えを言葉にして伝える能力は今後求められる能力であるため、バランスを取った教育が必要だと思います。

- ・問題なし 設定した目標の達成状況を適宜確認しながら進めてください。

- ・引き続きDXの取り組みを浸透できるように進めていただけたらと思います。
- ・昨年までの取り組みも生かして、さらに充実したものにしていきたい。

2. 生徒指導・支援

- ・改善の方向に向かっている件数が増えたことは喜ばしい限りである。可能であれば、それぞれの過程でもフィードバックをお願いしたい。
- ・生徒たちが抱えている問題は、外から見えづらい場合もある。多方面から情報収集・共有してあげてください。
- ・学校（授業）外の学びの提供を進めていただけたらと思います。
- ・コロナ下で学校行事にも制約があると思うが、可能な限り充実したものにしていきたい。

3. 進路指導・支援

- ・校内模擬試験等の機会を多く与えていただいている事に関しては良いことであると思う。継続していただきたい。
- ・苦手教科などで、生徒が望んでいた進路をあきらめることのないよう、進路意識と学力向上に取り組んでください。
- ・昨年までの取り組みも生かして、さらに充実したものにしていきたい。

4. 地域等との協働

- ・高校生にもなると親と一緒に行動する事に対して難色を示す生徒も多いと思うが、ほとんどの保護者にとっては最後のPTA活動と思う。一人の保護者として、生徒との協働の機会を残していただくことを希望します。なお昨年度は一人、今年度は二人の父親の方が自ら志願して交通安全委員会に参加していただいている。このような機会が増えることを望んでいます。
- ・毎年、各地で災害が発生している状況から、定期的に地域と協働した防災訓練の実施が必要と思います。
- ・昨年度までコロナ禍で実施が難しかった事業も、対策をしながら徐々に再開して生徒の知見を広げてあげてください。
- ・よりリアルな災害に対する意識啓発を伝えたらと思います。消防や自衛隊との取り組みは効果があると経験上感じます。
- ・コロナ下で十分な活動ができなかったと思うので、今年度は充実させてほしい。

5. 学校管理・学校運営

・事故や不祥事が起こると、多くの時間が対策防止等に割かれる。未然に防ぐことが大切と思う。研修会が継続して実施されている事は良いことであると思う。

大磯高校の魅力を十分にアピールできるように、今後も情報発信を継続してください。

・学校の魅力発信を、企業や公共施設とも取り組めていけたらよいと思います。

・これまで大きな事件・事故はなかったと思うので、引き続き取り組んでいただきたい。

今後の第2回は11月、第3回は3月に開催を予定している。